

＜自由集会のご案内＞

大会参加者は自由にご参加いただけます。自由集会のみに参加を希望される場合も大会参加登録が必要です。

7月15日（火）18：15～19：45

自由集会 1「農薬の生態影響試験およびリスク評価に関する勉強会 第14回：これまでのテーマから今後の展望を議論する」

Study group for ecotoxicological tests and risk assessment in agrochemicals No.14 The history and further perspective

会場：B会場 スタジオ1（やまぎん県民ホール 2F）

オーガナイザー：雑賀 修

概要：農薬の生態影響試験およびリスク評価に関する勉強会”は、2016年発足以来、13回開催して研鑽を積んできました。10年目の節目にあたり、過去のテーマを総括するとともに今後の方向性を議論したいと考えています。

自由集会 2「第6次環境基本計画とは～新たな化学物質管理政策の展開」

Development of a new chemicals management policy in line with the Sixth Basic Environmental Plan

会場：D会場 アプローチA（テルサ 3F）

オーガナイザー：環境省 化学物質安全課

概要：2024年5月、国の環境関係の最上位計画である第6次環境基本計画が閣議決定されました。その中において化学物質管理政策がどのように位置づけられているのか。また、計画に沿った新たな化学物質管理政策の展開とは。環境化学を専門とする学生さんや若い研究者の皆さんの現在の研究や今後の関心事項との関わりも探りつつ、本計画の実現にどのように貢献が可能か意見交換しましょう。また、環境化学の専門性を生かした環境省での働き方に興味がある方も歓迎です。

自由集会 3「皆で育む環境ノンターゲット分析 ～LC-HRMS/MS 編～」

Fostering our environmental nontarget analysis - LC-HRMS/MS part-

会場：E会場 アプローチB（テルサ 3F）

オーガナイザー：頭士泰之（産総研）

概要：環境中の化学物質を把握する上でノンターゲット分析（NTA）が注目を浴び始めている。一方で装置分析やデータ解析、特に Unknown ピークの解析を含むノンターゲットスクリーニング（NTS）は、各種情報が急速に溢れつつあり、その整理や実際場面での運用が難しいと感じられている。これらは確かに難しい部分もあるが、手軽な所から着手できる部分もあるため、本集会では LC-HRMS/MS の NTA を中心に情報を整理しつつ、これらの部分について簡単な紹介を行いたい。そして会場の皆さんから、NTA のどんな場面で困っているのか・限界を感じているのか・どうやったら上手くいくか、全体討論の場を設け、意見・情報交換を行いたい。

予定コンテンツ：

- ▶ 話題提供 Unknown をさっと減らせ！ 確実・迅速なライブラリサーチに向けて（仮），頭士泰之
- ▶ 話題提供 Unknown をもっと減らせ！ 全く未知の物質の構造推定に使える・使いたい情報とツール（仮），鈴木茂
- ▶ 全体討論： ノンターゲット分析に関するあれこれ

7月16日(水) 18:15~19:45

自由集会 4「タイヤ摩耗粉塵の生態リスク評価 ～どのように、どこまでやるべきか～」

The challenge of assessing tire and road wear particle ecotoxicity:
Defining the scope and methods for effective risk management

会場：B会場 スタジオ1 (やまぎん 2F)

オーガナイザー：仲山 慶(愛媛大学), 鈴木 剛(国環研)

概要：タイヤ摩耗粉塵の生態リスクの評価および管理は世界的にも重要な課題です。とくに6PPD キノンに対する高感受性種の存在が指摘されて以来、添加剤およびその変化物の生物影響の評価や環境中への流出量の削減等が必要とされています。本集会では、評価法や高感受性種の探索等、何をどのように、どこまでやるべきなのかについてメーカーや行政担当者を含めて意見交換し、リスク管理の方策に関する合意形成を目的としています。

自由集会 5「学生・若手研究者向け！環境化学関連お仕事大公開！」

Get-together and career counseling for students and young researchers

会場：D会場 アプローチA (テルサ 3F)

オーガナイザー：水川薫子(農工大), 徳村雅弘(静岡県立大), 渡部春奈(国環研), 水川葉月(愛媛大), 田上瑠美(愛媛大), 頭士泰之(産総研)

概要：毎年大好評の学会関連機関・企業のお仕事紹介イベントは、今年で第3回を迎えます。学生や若手研究者が、この学会に関連する企業や機関の方々と気軽に交流でき、キャリアパスを考える場となることを目指しています。今年はアカデミア関係者を含め、これまで以上に幅広い分野の機関・企業へお声がけします。皆さまの積極的なご参加を心よりお待ちしております！

自由集会 6「第二弾：化審法における化学物質の安全性評価の現状と展望」

Current Status and Prospects of Safety Evaluation of Chemical
Substances in the Chemical Substances Control Law

会場：E会場 アプローチB (テルサ 3F)

オーガナイザー：有井崇(経済産業省), 宇野誠一(鹿児島大学), 羽野健志(水産研究・教育機構), 小野恭子(産総研), 早稲田真末(製品評価技術基盤機構), 木島雄平(日本石鹼洗剤工業会)

概要：化学物質審査規制法(化審法)をご存じですか? PCBによる環境汚染をきっかけに、50年前に作られた法律です。化審法は化学物質による環境の汚染を防止するため、新規化学物質の事前審査、上市後の化学物質の継続的な管理措置及び性状に応じた規制措置を行っています。その制度は国民の安全の一層の確保を前提としつつ、化学産業の発展を促進するための合理的な化学物質管理制度へと変革を遂げています。こういった重要なツールとしての化審法は、安全性評価を行うに当たって産業との関わりや環境への対応、研究の発展など様々な分野の専門家を必要としています。化審法という制度を通じて、学問としての研究から産業への寄与や行政への関与が可能であり、産官学で広く協力体制を築いていくことが重要と思われます。昨年度ご紹介した生分解性・生物蓄積性の評価に加え、化審法におけるリスク評価についてもご紹介します。化審法などの科学技術と密接に関わる政策に興味がある方、生分解性・生物蓄積性の試験研究に興味がある方、化学物質の安全性評価・リスク評価などに興味ある方や、ご自身の研究内容がどのようにこれらの評価に関する業務に活かしようのか知りたい方々など出入り自由なのでご参加ください。